



「パートナー」

千八百年頃に
 盲導犬育成の本が出版
 第一次大戦後に
 失明者が多く
 盲導犬の必要性が高まる
 今日の日本では
 四千人の人が盲導犬を
 必要としており
 千頭ほどが
 目の不自由な方の
 パートナーとなっている
 盲導犬を育てる過程は
 愛に満ちている
 人に当たる十八歳までの
 多感な時期の一才まで
 パピーウォーカーと
 呼ばれるボランティアの
 家族と共に過ごす
 その日々は人と共に生き
 人と生きる楽しさを
 伝えるという
 二歳以降は厳しい訓練
 試験を受け盲導犬として
 生きる割合は四割
 愛に育まれ育てられ
 必要と思われる人と生き
 その重責を担う盲導犬は
 家族の一員として
 愛され尊ばれる



一年福祉実践教室 12月7日(水)

